



一般社団法人しずく

社員総会

2020年 10月 19日(月) 17時～
於：一般社団法人しずく事務局内



決議事項

第1号議案 第1期(2019年9月1日～2020年8月31日)
事業報告書承認の件

第2号議案 第1期(2019年9月1日～2020年8月31日)
決算報告書承認および監査報告の件

報告事項

1. 第2期(2020年9月1日～2021年8月31日)事業計画及び予算

一般社団法人しずく

第一号議案 第1期 事業報告書 (2019年9月1日～2020年8月31日期)

1. まとめ

山本氏父娘から、「自宅を使ってホームホスピスをして欲しい。そこで父を最期まで見て欲しい。」というご提案があり、山本氏宅を利用させてもらう方向で話を進めていた矢先に、山本氏(父)が他界された。しかし、娘さんから「この大きな家を一人で管理するのは大変なので、そのまま話を進めてもらっていい。」という意向をいただき、全国ホームホスピス協会へ報告。

2019年10月6日(日)全国ホームホスピス協会及び日本財団による視察があり、この場所でホームホスピスを始めるに至った物語や理事の思い、家主山本氏の思いなどを伝えた。その中で、みんなの思いや物語は素晴らしく、応援団もいることで、この場所でホームホスピスを開設することは可能だろうと許可をいただいた。また、今後の運営、人事、市との連携、消防やスプリンクラー等に関する消防署との連携などのアドバイスをいただいた。改築に当たっては、屋根や外壁の修理が必要と思われること、スプリンクラーは全室につける必要があるため、ホームホスピスで使用する母屋と増築部分を一旦切り離してスプリンクラーを設置し、消防の許可をもらった後に再度接続する方が改築費用は少なく済むと思われること、水回りをどこに持っていくか、改築費用をできるだけ抑えるためにはどうしたらいいか、地元の建築士さんとよく相談するようとのアドバイスをいただいた。

その後、山本邸は登記がされておらず、家の見取り図もないことが判明し、山本氏が家屋調査士を頼まれ、見取り図作成、登記をされることとなった。また、母屋と増築部分を一旦切り離すという話から、山本氏が増築部分に居住スペース(キッチン、浴室、リビング)を作り、完全に別棟として使用したい意向があった。

そこで、まず、建築士を探すことにした。近隣の方から紹介を受けた大松産業さんと面談、家屋調査士からの資料で家の見取り図を作成してもらった。それを元に、まず山本氏の居住スペース改築案を作成してもらったが、山本氏の意向に沿う改築案が出来なかったこと、見積もりが高かったことにより、山本氏が他社を検討。山本氏が館ホームに依頼することを考えておられたため、当法人も館ホームへ見積もりを依頼することとした。

2020年3月4日、館ホームと打ち合わせを行い、3月下旬にできた仮の改築案を元に4月3日、山本邸にて改築案再検討。世界で猛威を振るうことになった新型コロナウイルス感染者が3月末には糸島市でも発生したため、これ以降は理事や業者との打ち合わせも、メール、電話を中心に行うこととなった。理事の意見を含め作成してもらった改築案で日本液炭株式会社（全国ホームホスピス協会の推薦）へスプリンクラーの見積もりを依頼。改築とスプリンクラーの見積もりを全国ホームホスピス協会へ提出した。全国ホームホスピス協会の理事達からアドバイスのメールをいただいた後、5月29日全国ホームホスピス協会とZOOM会議を行った。2人部屋、3人部屋と個室1つ、スタッフ賃貸部屋1つで計画していたが、今般の感染症対策のためには、個室化をしていた方が良いこと、できれば常時6人+1人を受け入れる体制があった方が運営的に安心であることなどの面から考え、エレベーターを設置して2階を利用できるように検討するようアドバイスをいただいた。また、畳の部屋はできればそのまま畳の方が落ち着くので、車いすでも移動可能な汚れにくい畳にしてみるよう提案いただいた。

協会のアドバイスを元に館ホームと再度検討しエレベーターの設置も考えたが、エレベーター設置に800万円かかること、また、建築確認申請が必須とのことで、エレベーター設置は困難と考え、2階はスタッフ賃貸部屋、1階に個室7部屋で改築案を作成してもらった。また、竹尾氏、進藤氏のアドバイスにより、断熱にも考慮した改築案を作成してもらった。最終改築案での見積もりは1,540万円、スプリンクラー見積もりが410万円だった。改築案と見積もりを全国ホームホスピス協会へ提出しOKをいただいた。

8月28日に日本液炭株式会社より現地確認に来てもらい、糸島消防本部との打ち合わせをしてもらって消防の許可もいただいた。

改築時期に関しては、当初より8月の初盆までは母屋で行いたいとの意向があったため、それまでにまず山本氏居住スペースの改築を終了。4月以降に日本財団へ申請を行った後、初盆終了後に母屋の改築を行い、10月頃の開設を考えていたが、登記がされていなかったこと、家の見取り図がなかったことと新型コロナウイルス感染により、計画がずれ込み、山本氏居住スペースの改築が初盆以降の計画となったため、来年度の申請、改築予定となり、現状では4月以降の開設予定である。

また、家の契約に関しては、当初、家のみを売るという話もあったが、登記がされていなかったため、賃貸契約の方向で話が進んでいた。屋根の修理は、こちらが依頼した熊谷工業の見積もりは必要な部分のみの修理で 150 万円となっていたが、山本氏は全ての葺き替えを希望され、約 500 万円の修理費を賃貸料に上乗せしたいとのことだった。6 月、橋本司法書士に間に入ってもらい、賃貸借契約書を作成していただいたが、山本氏側は 20 年の定期借家契約を希望され、弁護士作成の契約書を提示された。固定資産税や屋根の修理費に加え、家の火災保険料なども家賃への上乗せを希望され、月 65,000 円での提示とかなり高額であった。保険のことや契約内容について協議していたところ、山本氏が居住スペースの改築にかなりの金額が必要となったため、屋根の修理費や火災保険料が負担となっているとのことだった。そこで、土地と家を購入し屋根の修理や火災保険は法人で負担する方向で話が進むことになった。すべての土地と建物を購入し、山本氏へ居住スペースを無償提供することを提案したが、肩身の狭い思いをしたくないとの山本氏の意向から、土地を分筆し家を分棟した上で、母屋の土地と建物を購入する方向で協議中である。

第 1 期は新型コロナウイルスが世界中で猛威を振るい、緊急事態宣言が発令されるなど、感染対策に注意を要する期間が長引いたため、直接の面談が制限され、メールや電話、オンラインでの打ち合わせが中心となり、なかなか話が進まない現状であった。来期も新しい生活様式での感染対策が必要とされる中でのホームホスピス開設には困難を極めることも多いと思われませんが、「誰もが住み慣れた地域で最期まで安心して暮らしていけるまちづくり」ができるように取り組んでいきたいと思えます。

全国ホームホスピス協会及び日本財団による視察（兼 第1回理事会）

2019年10月6日(日)11時～

参加者：

- ・全国ホームホスピス協会；理事長：市原氏
理事：竹熊氏、樋口夫妻、高橋氏、黒岩氏、古野氏
- ・日本財団；佐藤氏、高嶋氏
- ・一般社団法人しずく；理事長：白谷
理事：坂田、荻野
監事：福地
行政書士：黒田
- ・家主；山本氏



家の契約に関して打ち合わせ

2020年1月18日(土)9：30～

- ・山本氏姉弟
- ・白谷
- ・黒田行政書士

2020年6月6日

- ・白谷
- ・福地
- ・橋本司法書士
- ・山本氏

2020年7月1日(水)

- ・白谷
- ・山本氏

2020年7月26日(日)

- ・白谷
- ・山本

2020年8月6日(木)

- ・白谷
- ・山本

改築に関する打ち合わせ

2020年1月31日(金)15:00

参加者:

- ・白谷、坂田、福地
- ・黒田
- ・熊谷瓦工業株式会社代表:熊谷裕二氏
- ・(有)インテリア・オフィス・イー代表:竹尾洋子氏
- ・(株)しんとう工芸代表:進藤和典氏

2020年2月15日(土)

- ・白谷
- ・山本氏

2020年3月5日(木)

- ・白谷
- ・館ホーム:大館氏

2020年4月3日(金)

- ・白谷
- ・館ホーム

2020年5月29日(金)

ZOOM会議

- ・白谷
- ・全国ホームホスピス協会

2020年6月19日(金)

- ・白谷
- ・館ホーム
- ・竹尾氏、進藤氏

2020年8月28日(金)

- ・白谷
- ・日本液炭株式会社:榎本氏
- ・大成設備株式会社:浦邊氏、松本氏
- ・館ホーム

研修参加

第8回ホームホスピス全国合同研修会 in 広島

テーマ 〈暮らしの中で逝くこと〉

2019年11月30日(土)～31日(日) 広島国際会議場

参加者：白谷、坂田

内容：

基調講演 豊かないのちの共鳴 岡田 圭(ニューヨーク訪問看護サービス・終末期
スピリチュアルケアプログラム・マネージャー)

日本人のためのハワイホームホスピス事情 三浦佳代子

(Nagomi Foster Homes 代表)

シンポジウム 暮らしの中で逝くこと

コーディネーター 高橋 紘士(東京通信大学教授 高齢者住宅財団顧問)

シンポジスト 片山 壽(片山医院院長)

羽田 富美江(鞆の浦さくらホーム代表)

市原 美穂(全国ホームホスピス協会理事長)

教育講演－1 医療に「生活の視点」を

迫井 正深 (厚生労働省大臣官房審議官)

基調講演－2 地域包括ケアシステムのまちづくり

山口 昇(公立みつぎ総合病院名誉院長)

市民公開講演会 「ホームホスピス」ってご存じですか

市原 美穂(全国ホームホスピス協会理事長)

鼎談 いのちについて考える時間

登壇者 長尾 和宏(長尾クリニック院長)

板井 孝壱郎(宮崎大学医学部大学院教授)

宇都宮 宏子(在宅ケア移行支援研究所宇都宮宏子オフィス代表)

視察

ホームホスピスわれもこう(熊本)

2019年12月24日(火)

参加者：白谷、坂田



広報活動

福岡ノーマライゼーションライオンズクラブクリスマス会参加

2019年12月24日(火)

参加者：白谷、福地

ホームページ作成

2020年8月28日(金)

Studio max voice 岸田氏と打ち合わせ

現在ホームページ制作中

<https://www.shizuku-itoshima.jp>

第2号議案

第1期決算

2019年9月1日～2020年8月31日期

収入の部		第1期予算額	第1期決算額	
助成金収入		15,000,000	0	日本財団
会費収入		0	0	正会員1万円
講座収入		0	0	
寄付金収入		16,000,000	16,000,000	寄付金、賛助会員費、クラウドファンディング
雑収入		0	159	受け取り利息
前年度繰越金		0	0	
計		31,000,000	16,000,159	
支出の部		第1期予算額	第1期決算額	
事業費	研修会 年次大会 育成塾	70,000	79,740	研修費 27,000 交通費 52,740
	会費	30,000	30,000	準会員会費
管理費	人件費	80,000	0	
	設備費	0	0	
	広告宣伝費	200,000	203,344	ホームページ作成
	事務消耗品費	50,000	0	
	通信費	20,000	50	切手、電話、インターネット FAX
	業務委託費	300,000	267,600	設立費用
	租税公課	0	0	
	雑費		2,242	
	その他の支出	19,500,000	0	改築、スプリンクラー
計		20,250,000	582,976	

第1期(2019年9月1日~2020年8月31日)

家類目 2 第

一般社団法人しずくの会計を別紙のとおり決算いたしました。

2020年10月19日	第1期	第1期	監事の承認
現金	0	12,000,000	人取金取付
現金	0	0	一般社団法人しずく
現金	0	0	代表理事 白谷 美和
現金	0	10,000,000	人取金付替
現金	0	0	人取金
一般社団法人しずく 会計監査報告			金取金取付
1. 監査実施年月日	2020年 10月 19日		出支
2. 業務執行の状況及び財産の状況	上記決算会計		
<p>第1期の上記決算の決算書、会計帳簿、預金通帳、領収書および関係証拠書類を閲覧し照合した結果、収支報告及び各帳簿は相違なく適正に執行処理されていることを認め、真実であることを報告します。</p>			
現金	0	0	費用
現金	0	300,000	取付金
現金	0	20,000	取付金
現金	0	50,000	取付金
現金	0	500,000	取付金
現金	0	0	取付金
現金	0	500,000	取付金
現金	0	500,000	取付金
現金	0	500,000	取付金

令和2年10月19日
一般社団法人しずく
監事 福地 周一 